

79
3747



分 體

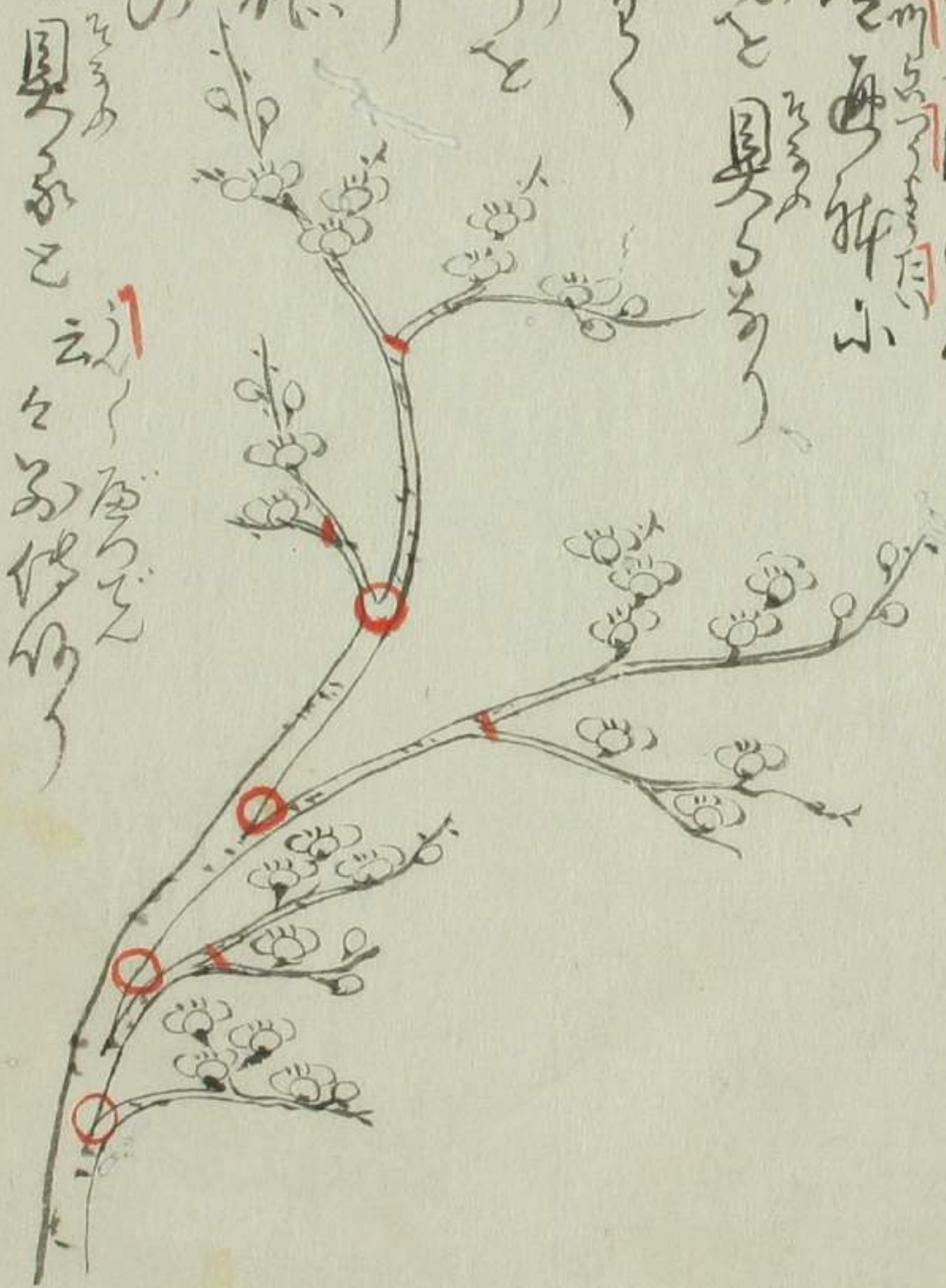
一 五體各投肉膏を以て身木の相と象り臨場なり
と一々小具を正しく御く肝要なり

一 五體各小管伝導ありと具へて花葉各小形各小
つと小三三體を具へて小生きたるは是れなり

一 草花各小枝葉各と以て臨場ありと御く事口傳
る下小器と出しく結骨骨の上微細小分不ゆつ小
器なり

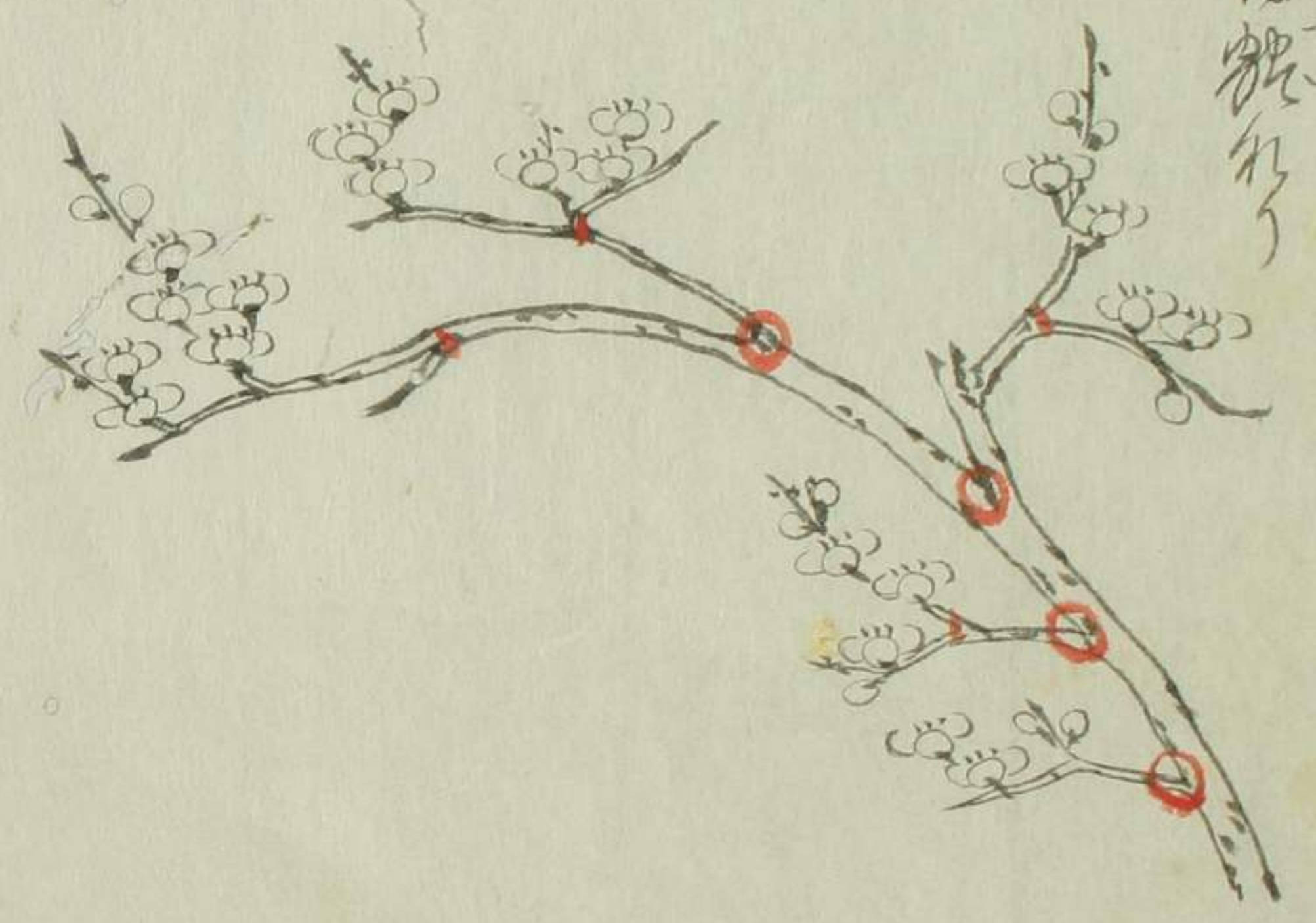
昭和十年
七月九日
購求

月の名を
 けりて形ハ圓の體あり
 一ハ正令海神小
 各海用と異なり
 口傳し
 圓ハ五折と
 至る
 俗に
 小各圓の
 海月と異なり

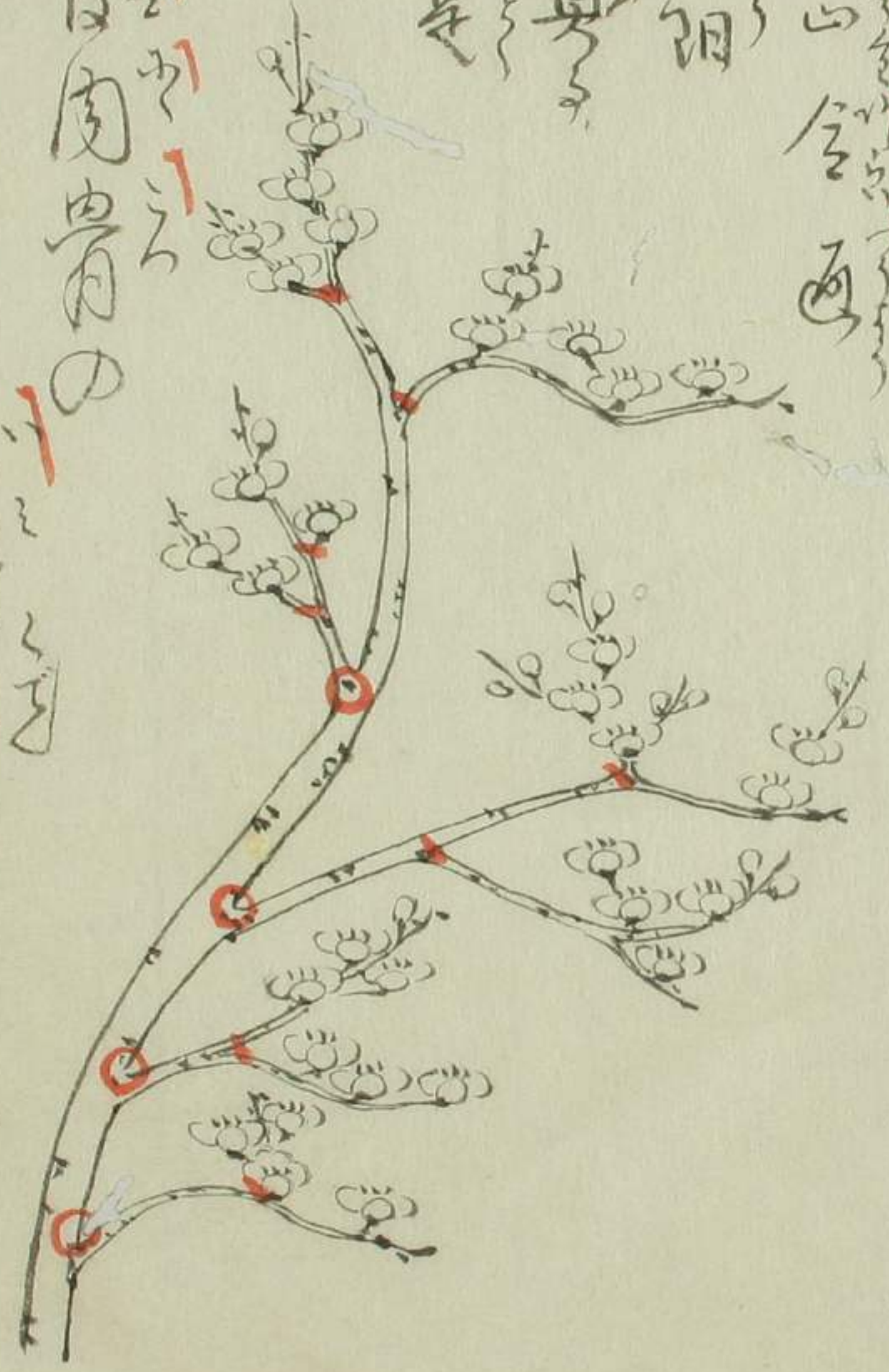


九
 九
 九

此の形を肉の體より
 師 五の形を體より
 是を五體不
 各西月と
 具あり



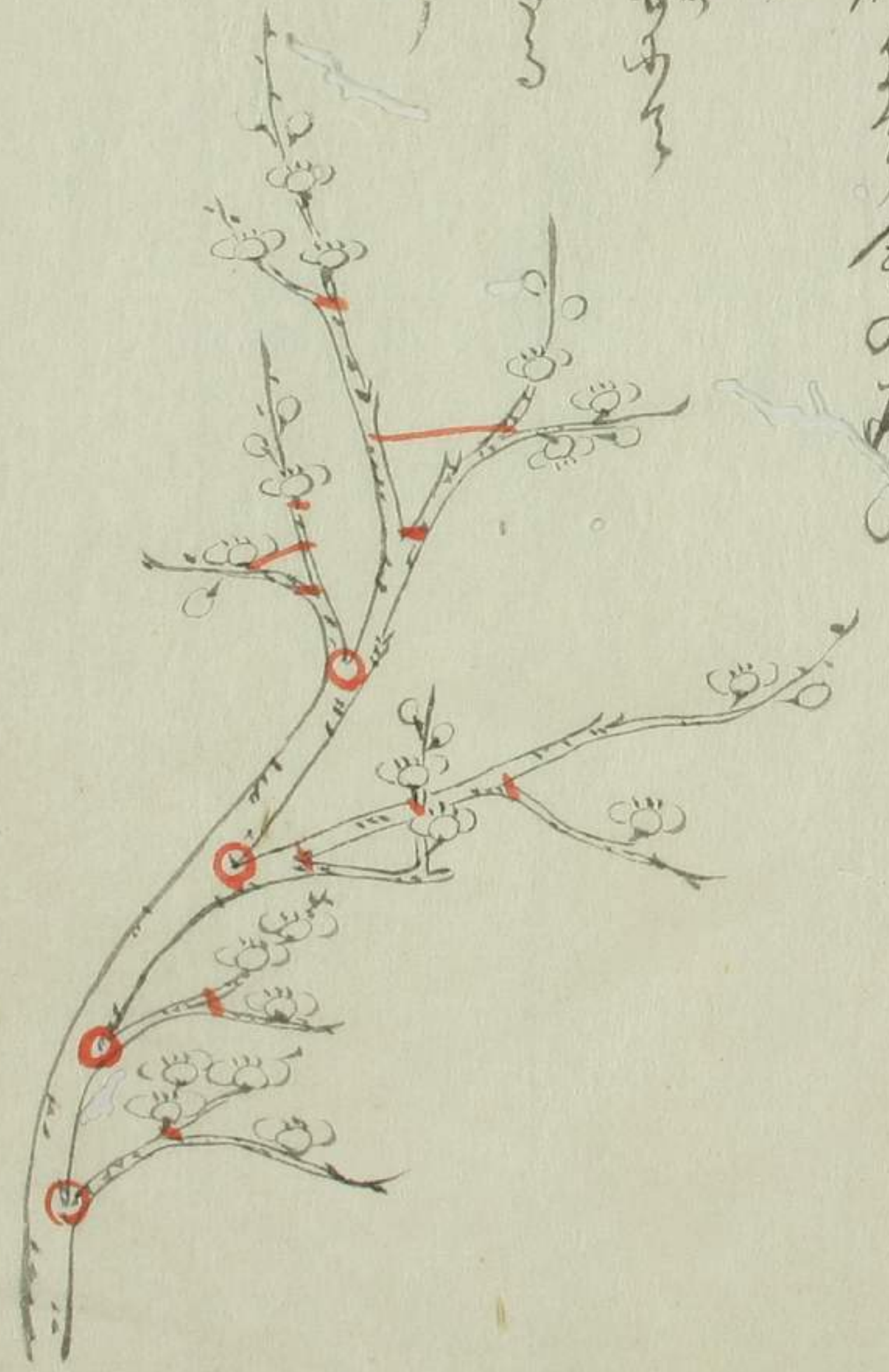
此の形を肉の體より
 師 五の形を體より
 是を五體不
 各西月と
 具あり
 一 小
 具
 是ハ皮肉の
 十 體より



けさの船ハ五船各は肉骨と見せしめ
又五船ハ各は
さしつりあつたの船こなるはけり
けりハ五船の船
た多船ハ見せしめ
し割ハ五船の船
り船ハ五船
たハ五船
けりハ五船
減少するは



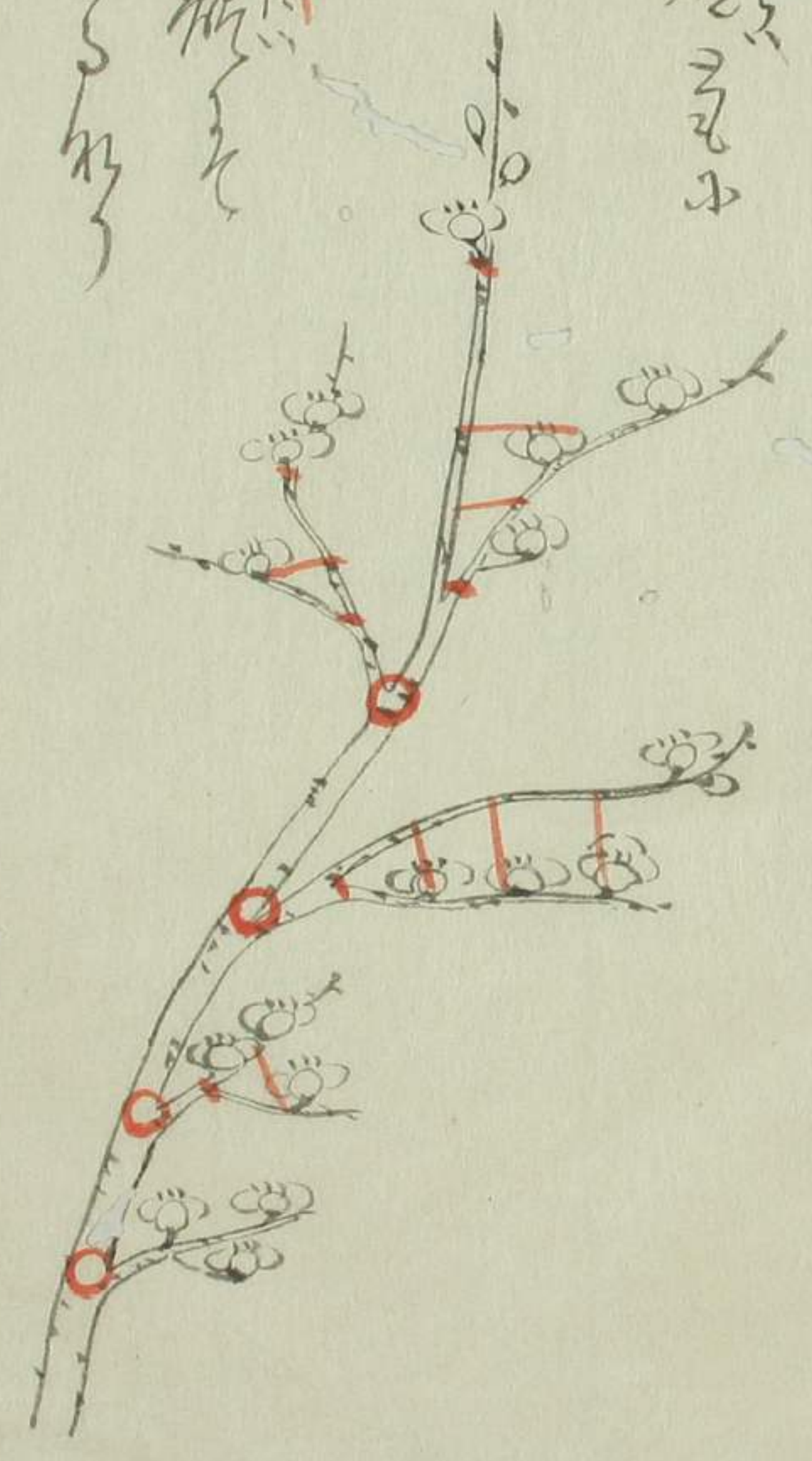
この曲ハ五船の船
今令の船ハ五船の船
座とさし
又五船の船
船ハ五船
曲ハ五船



し曲ハら花の海ハ船少相とる
今この船少々海の家と相ことる
海の船少々海の家と相ことる
船ハ船少々海の家と相ことる



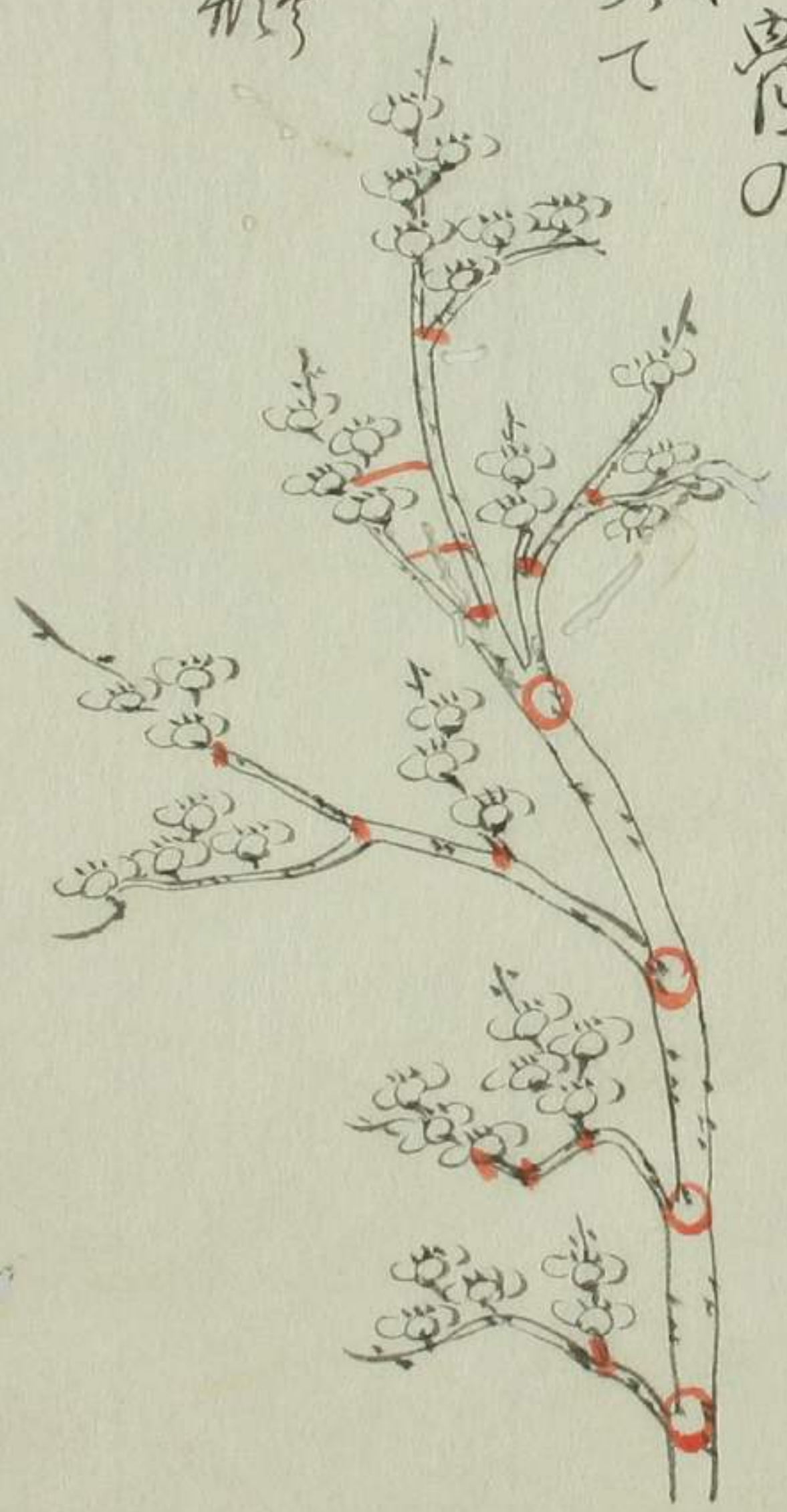
し曲ハら花の海ハ船少相とる
今この船少々海の家と相ことる
海の船少々海の家と相ことる
船ハ船少々海の家と相ことる



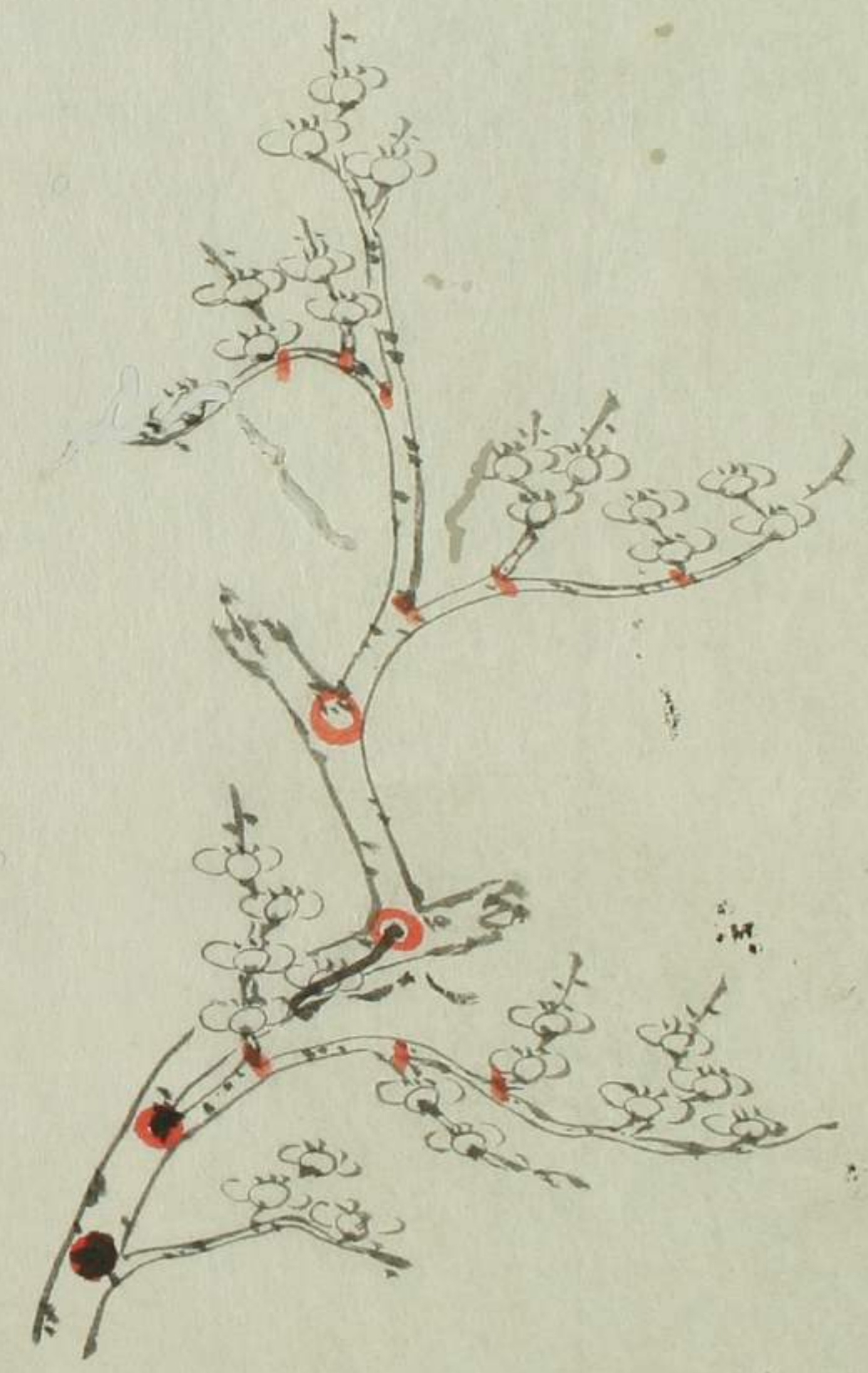
曲ハ次上のめ皮肉骨と生の相と
 取こきされハ一層と一層と一層と



十の花形ハ一花の苗あり相の相と
 十の花形ハ一花の苗あり相の相と
 小皮肉骨の
 三つと異て
 十の
 乃具ハ
 一層と一層と一層と



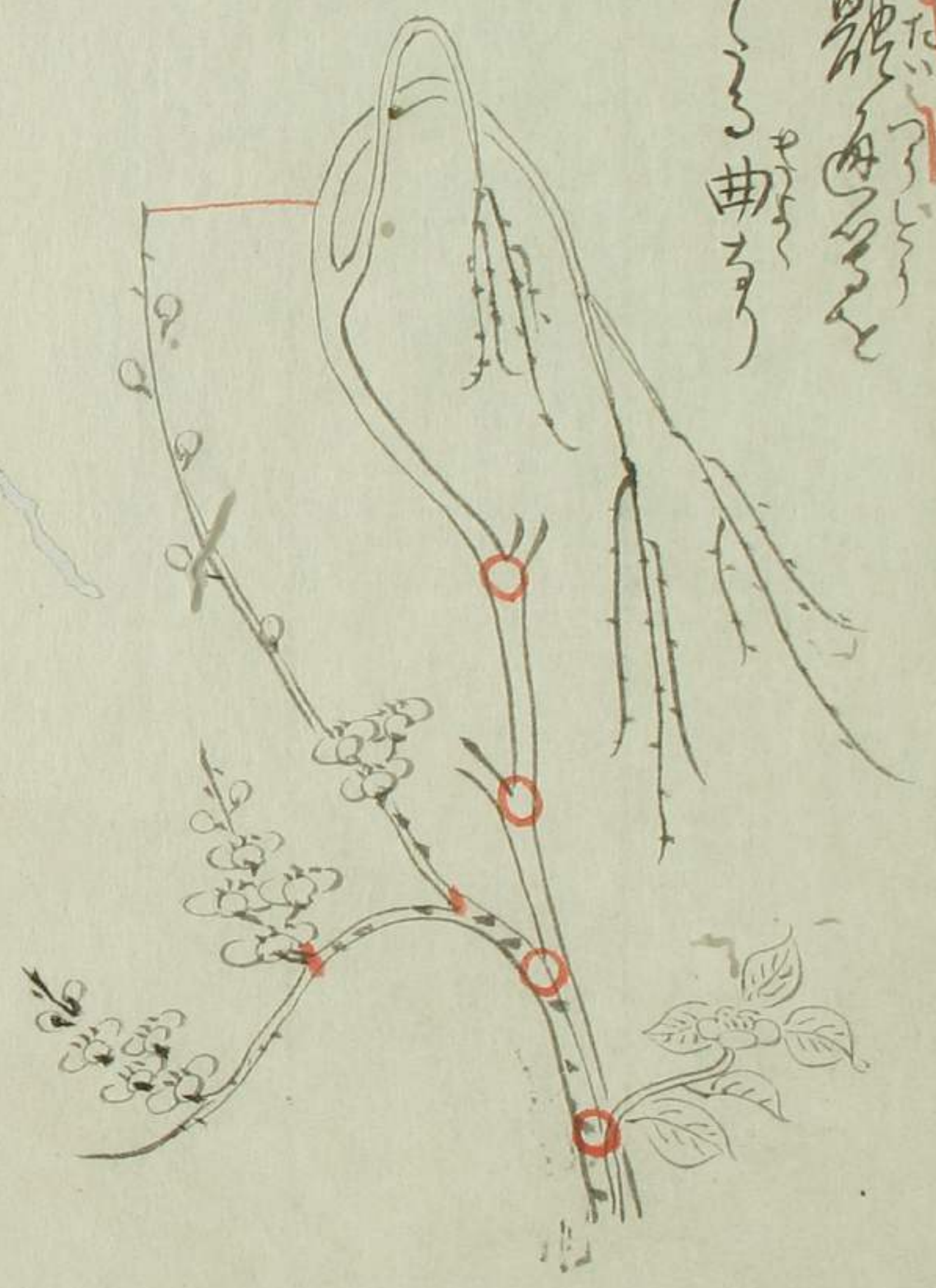
此のきくたのりふす
 曲張ハ合の相とらるの合めり
 龍乃海あそ海月とるるれり



此のきくたのりふす
 曲張ハ合の相とらるの合めり
 龍乃海あそ海月とるるれり

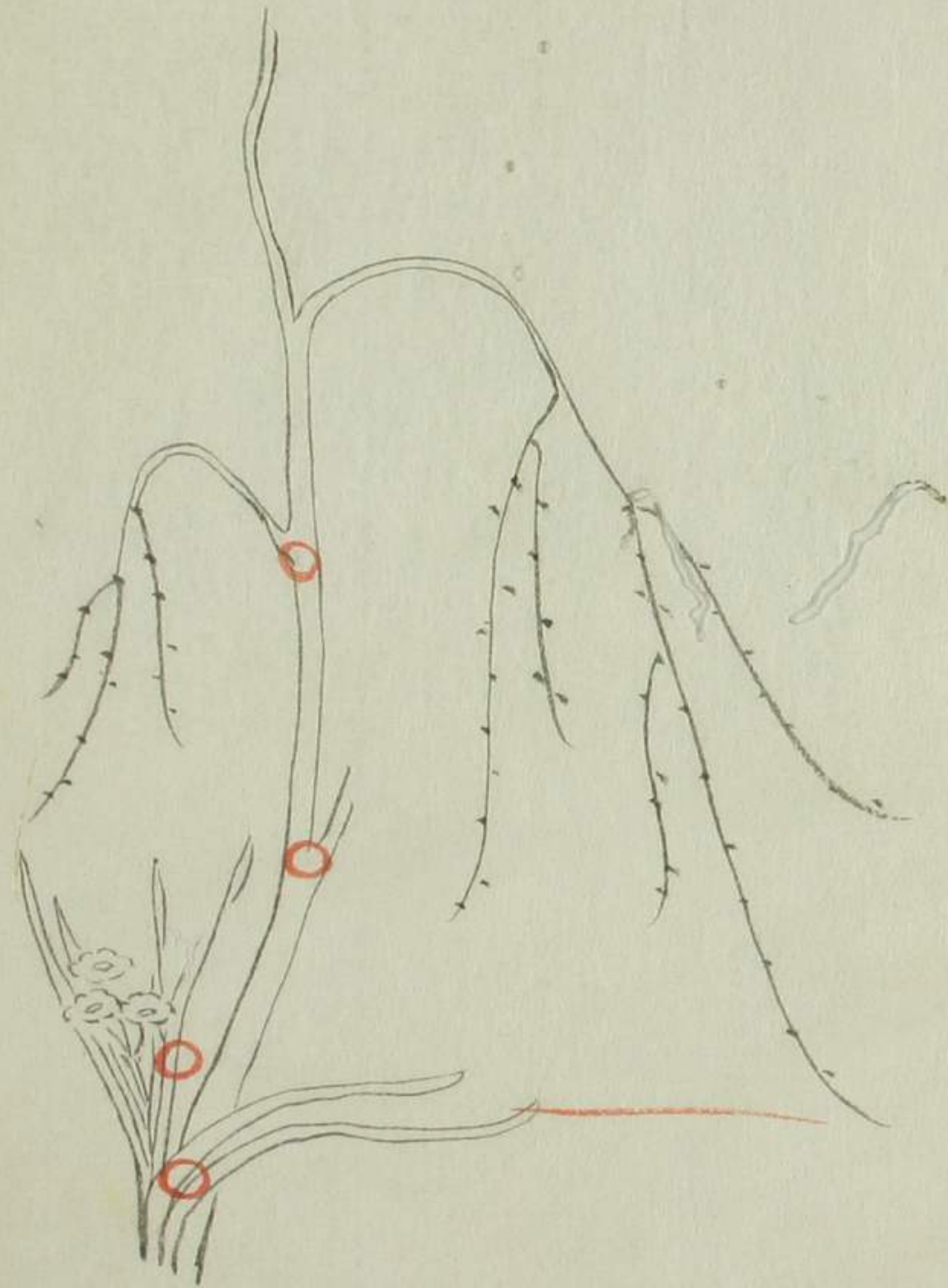


曲ハ ちうれきもの 形を 類してし
 又 器の 形を 類してし
 御 さいしう 曲る



曲ハ 器の 形を 類してし
 又 器の 形を 類してし
 御 さいしう 曲る
 曲ハ 器の 形を 類してし
 又 器の 形を 類してし
 御 さいしう 曲る



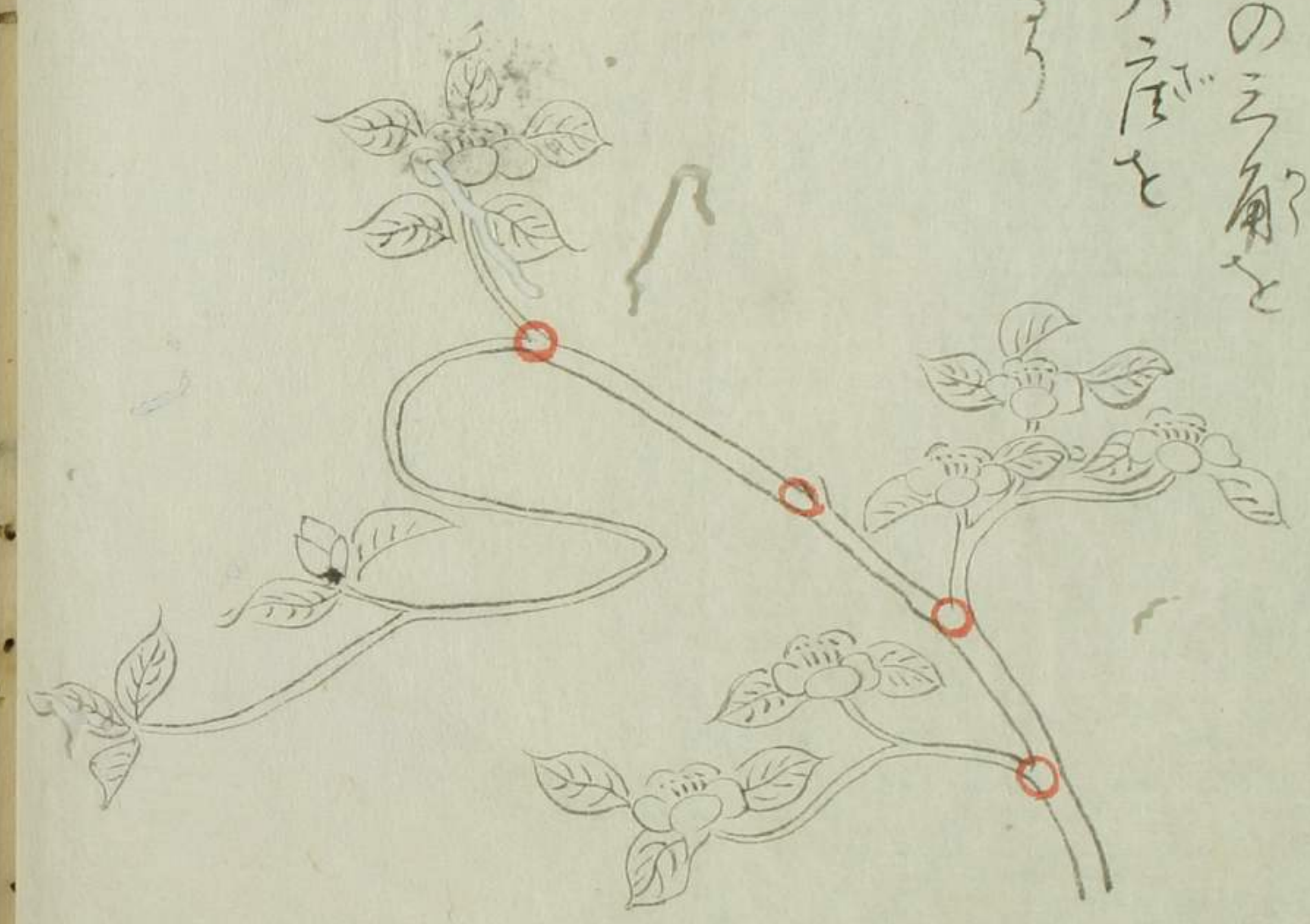


此の植物ハ草類ニモ小動物ノ肉ヲ食スルノ類ニシテ
 葉ハ細クシテ葉ノ裏ニトシテ振ルル



この植物ハ草類ニシテ葉ノ裏ニトシテ振ルル
 葉ハ細クシテ葉ノ裏ニトシテ振ルル
 葉ハ細クシテ葉ノ裏ニトシテ振ルル
 葉ハ細クシテ葉ノ裏ニトシテ振ルル

曲ハ三の枝少く海の相と魚
 當の枝少く新の三角と
 合すまねく體ハ産と
 そと相と枝とさう



曲ハ三の枝少く海の相と魚
 又海の身少の相と
 めて體の三角と合を
 枝ハのりて
 海の相と
 身と
 皮い
 肉骨と
 御くし
 體ハ生の相とさう
 相ハ少くさうさうさう



十の曲ハハ
 衆の云々の相を
 鼻ハハ
 取
 此の
 相を



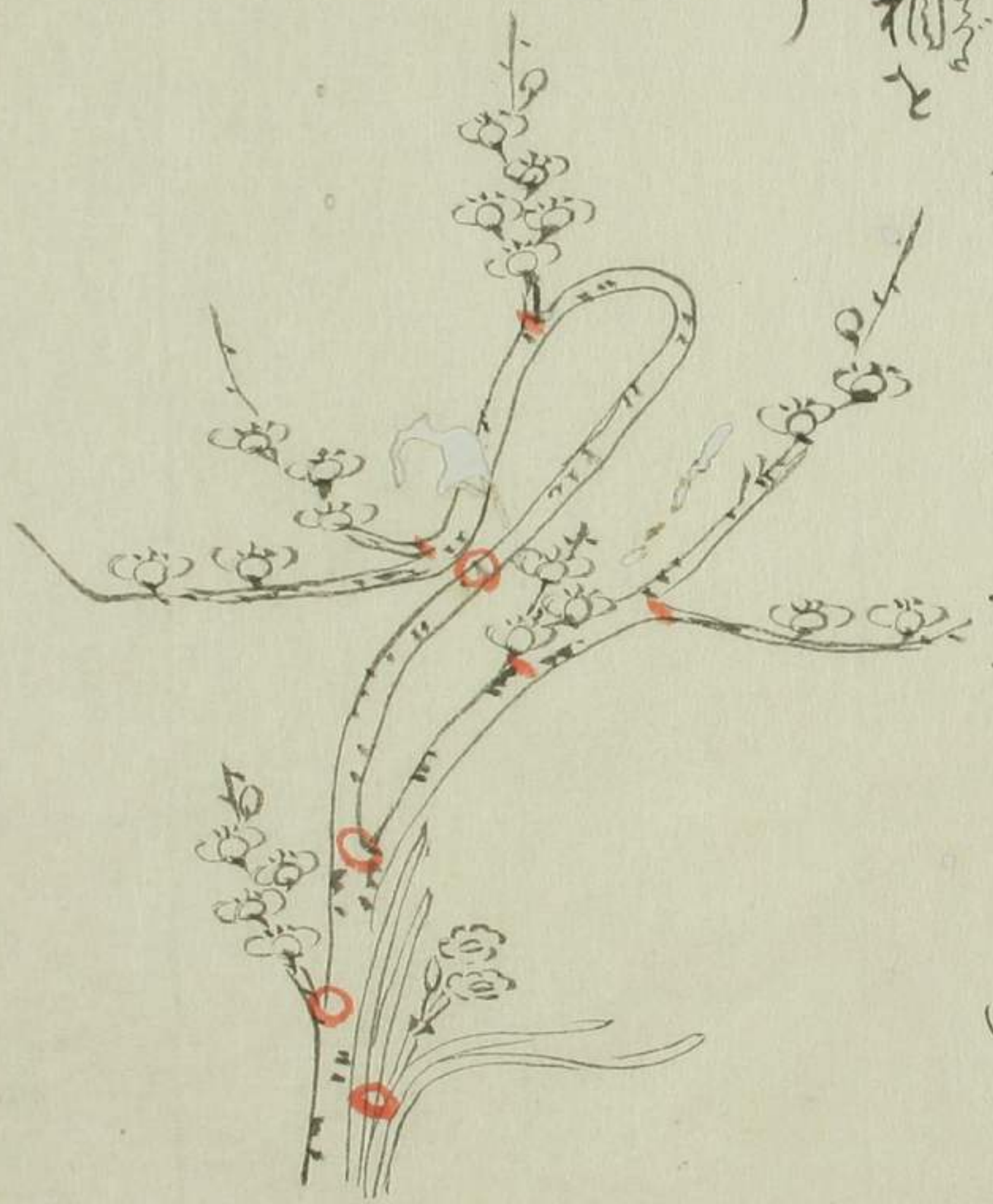
この曲ハハ
 衆の云々の相を
 鼻ハハ
 取
 此の
 相を



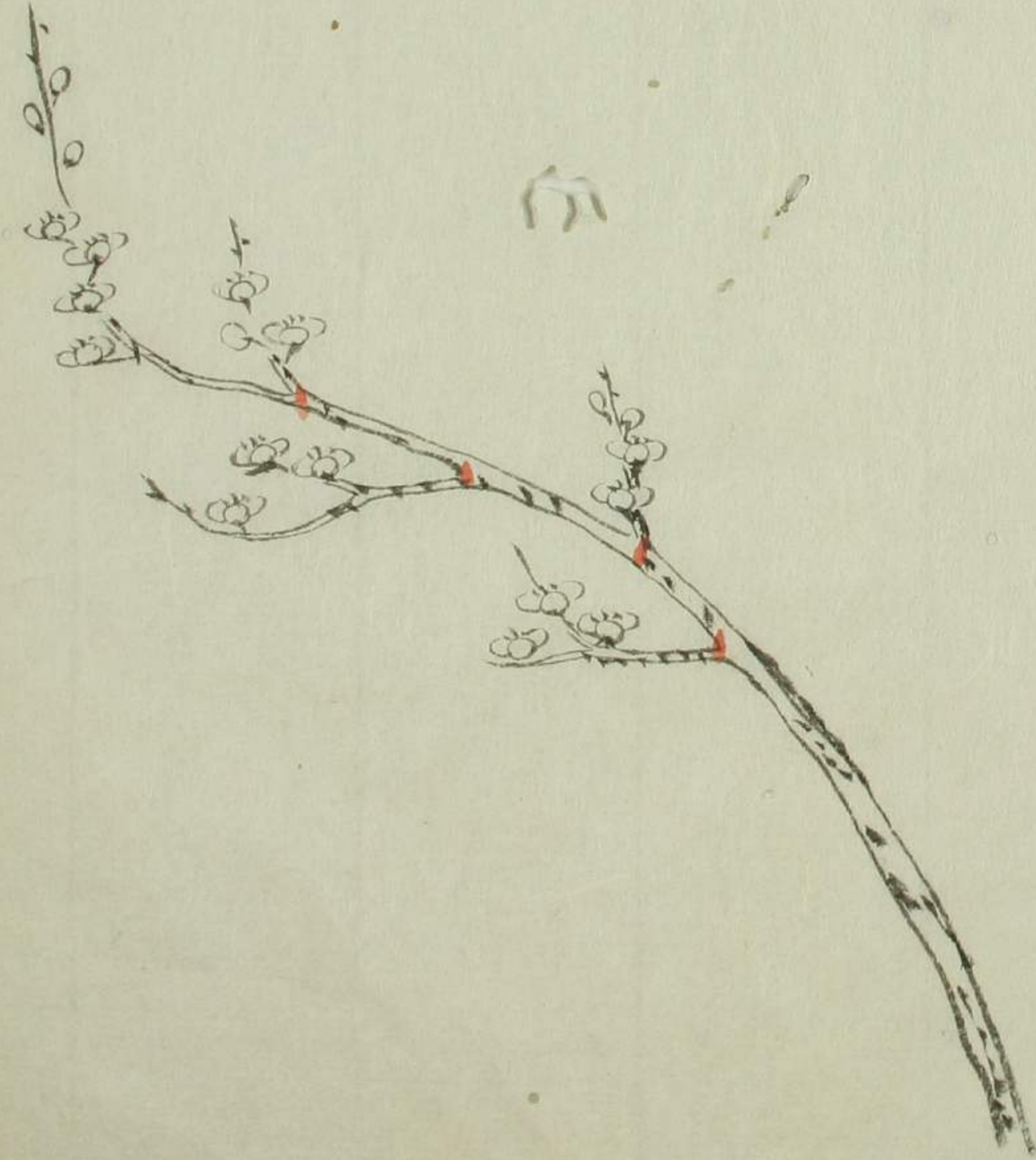
し曲ハつゝ色を懸て
そのを懸り着る小
花の相と
ちり



し曲ハつゝ色を懸て
そのを懸り着る小
花の相と
ちり



了
通
用
上
小
回
段



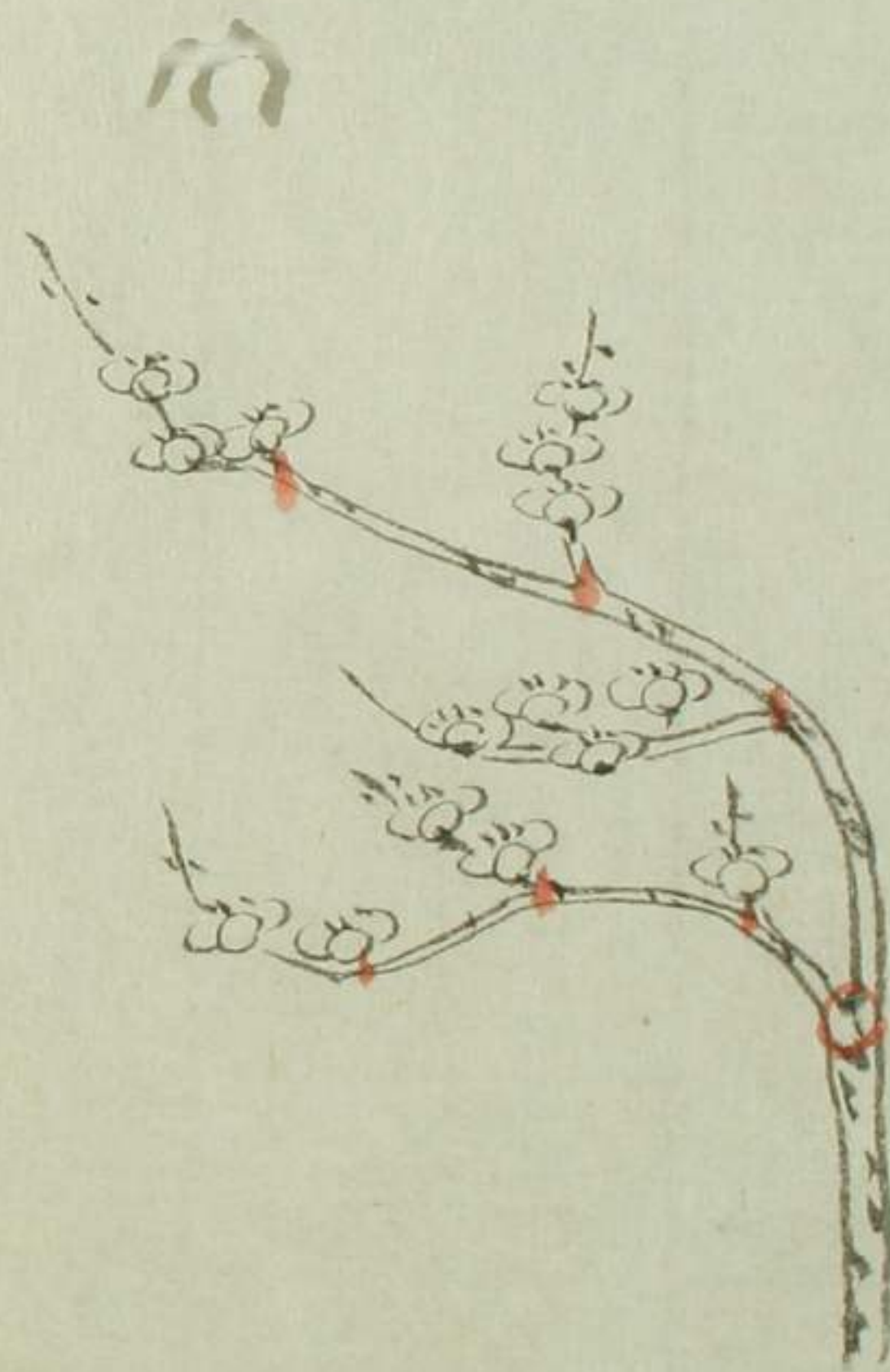
五
號
の
皮
西
記
合
二
五
神
各
具
是
二
三
相
形



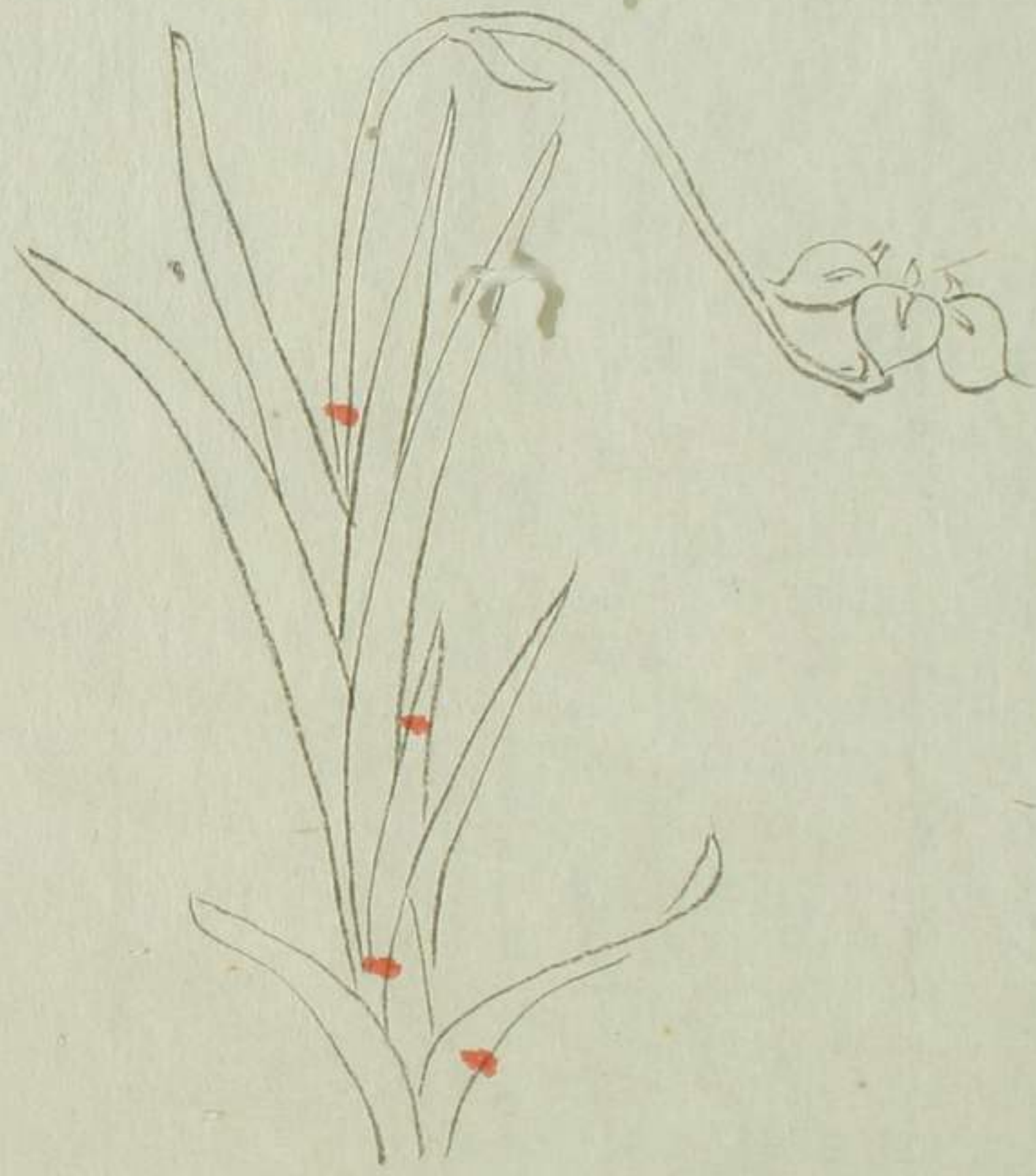


このまじりた
 曲 勢ハ
 西の流と
 (のびをさし
 短くをひ

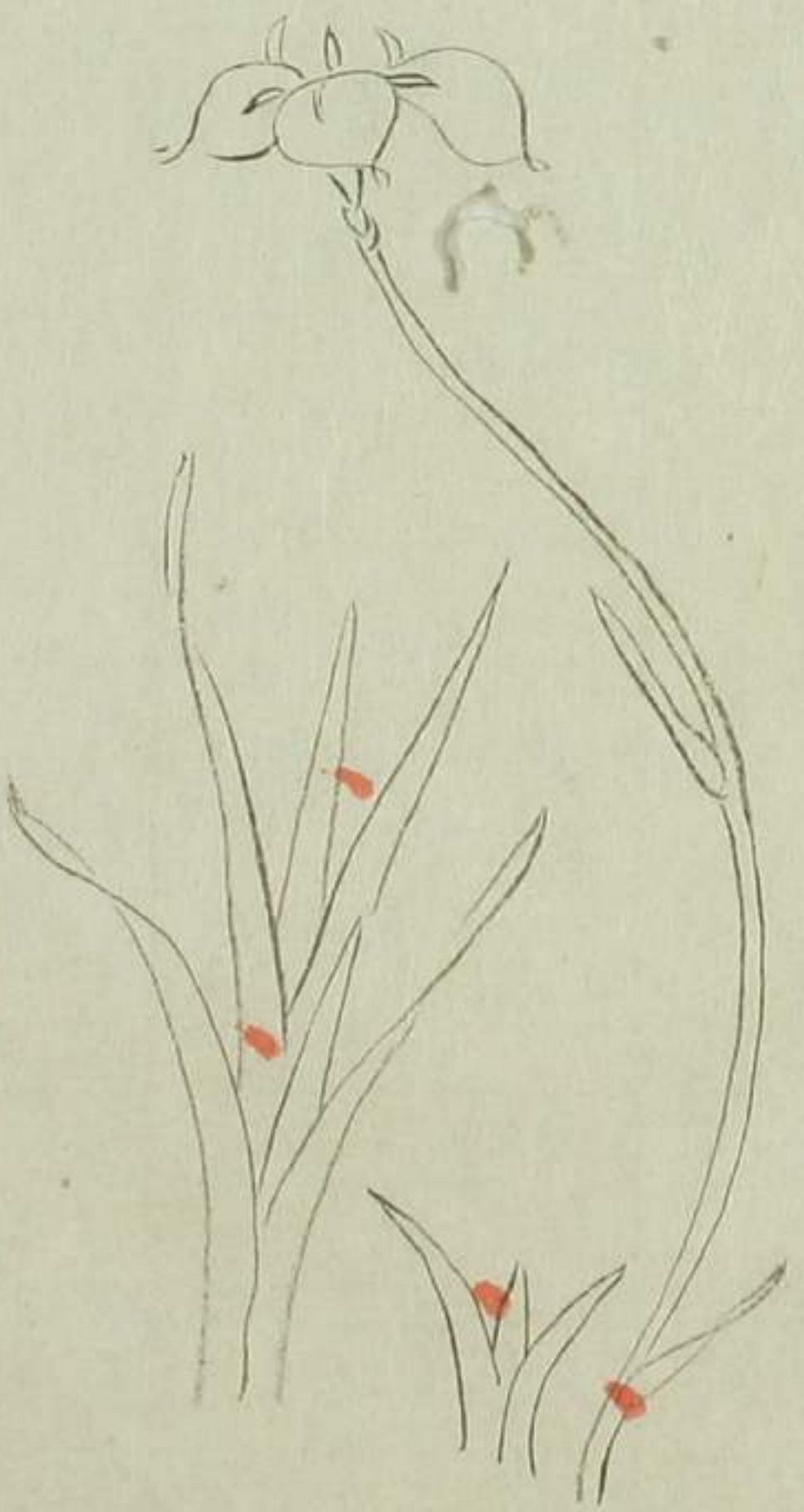
勢
 上
 同ト



け曲ハ海の葉と短くつ
 らん心乃葉と海の相小国
 あり



け曲ハ海の葉と短くつ
 らん心乃葉と海の相小国
 あり

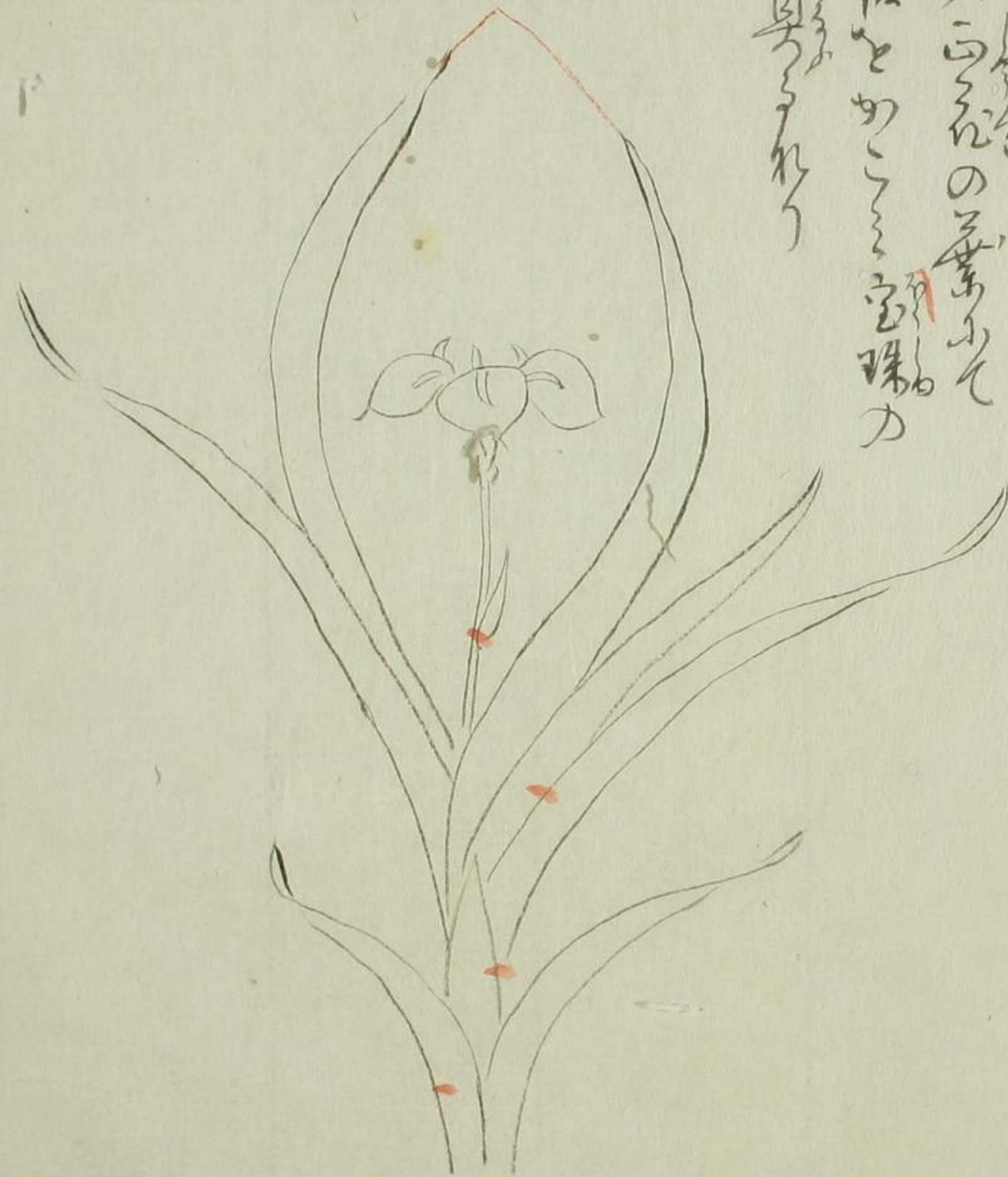


あきつゆ
し曲ハ 西の
花の葉を
花とそ



あきつゆ
し曲ハ 西の
花の葉を
花とそ





このまきし
 曲ハ西の
 花の
 前後とわ
 宝珠カ
 形と具
 なる



このまきし
 曲ハ西の
 花の
 前後とわ
 宝珠カ
 形と具
 なる

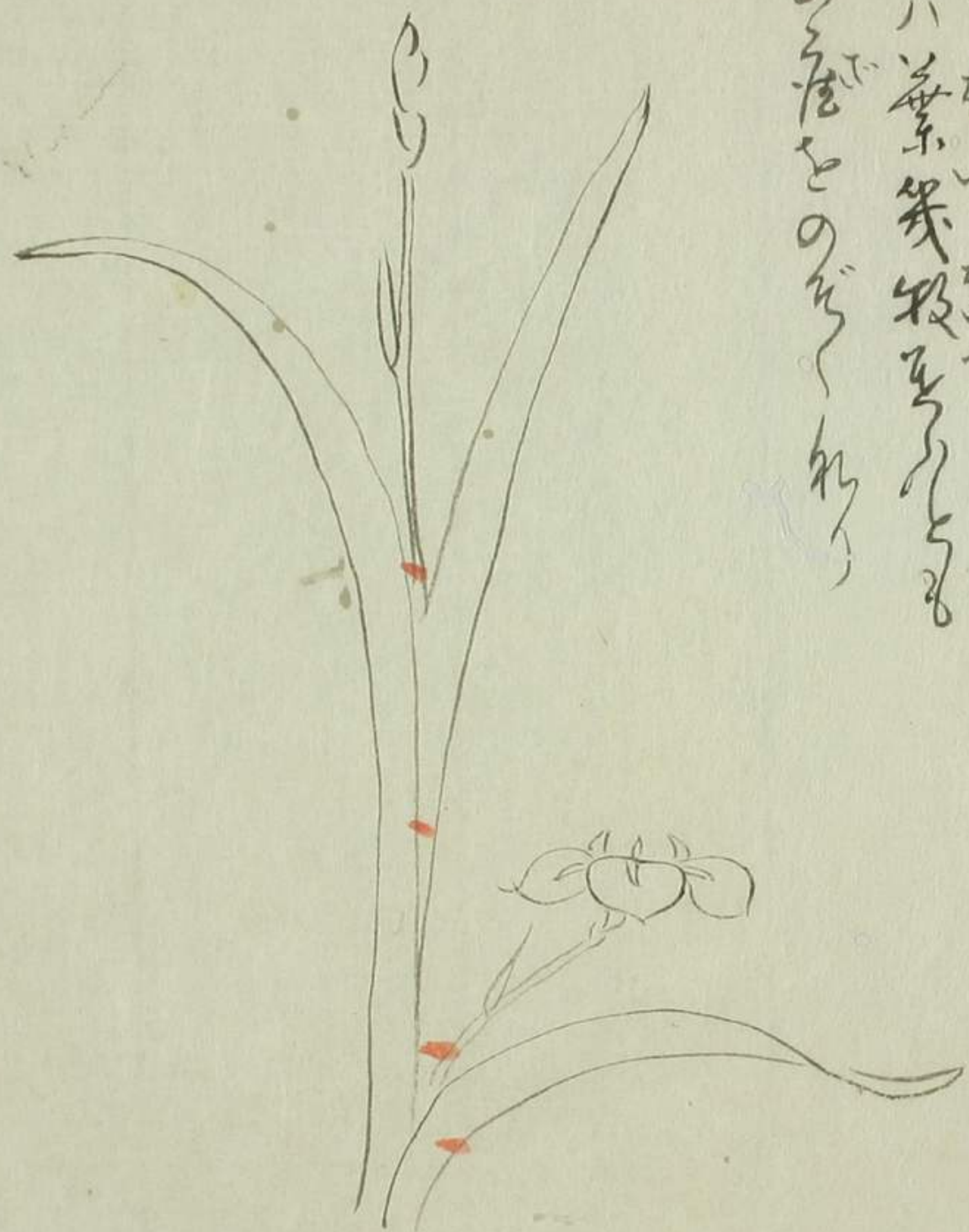
しめみ
曲ハ葉を
の花を
の葉を



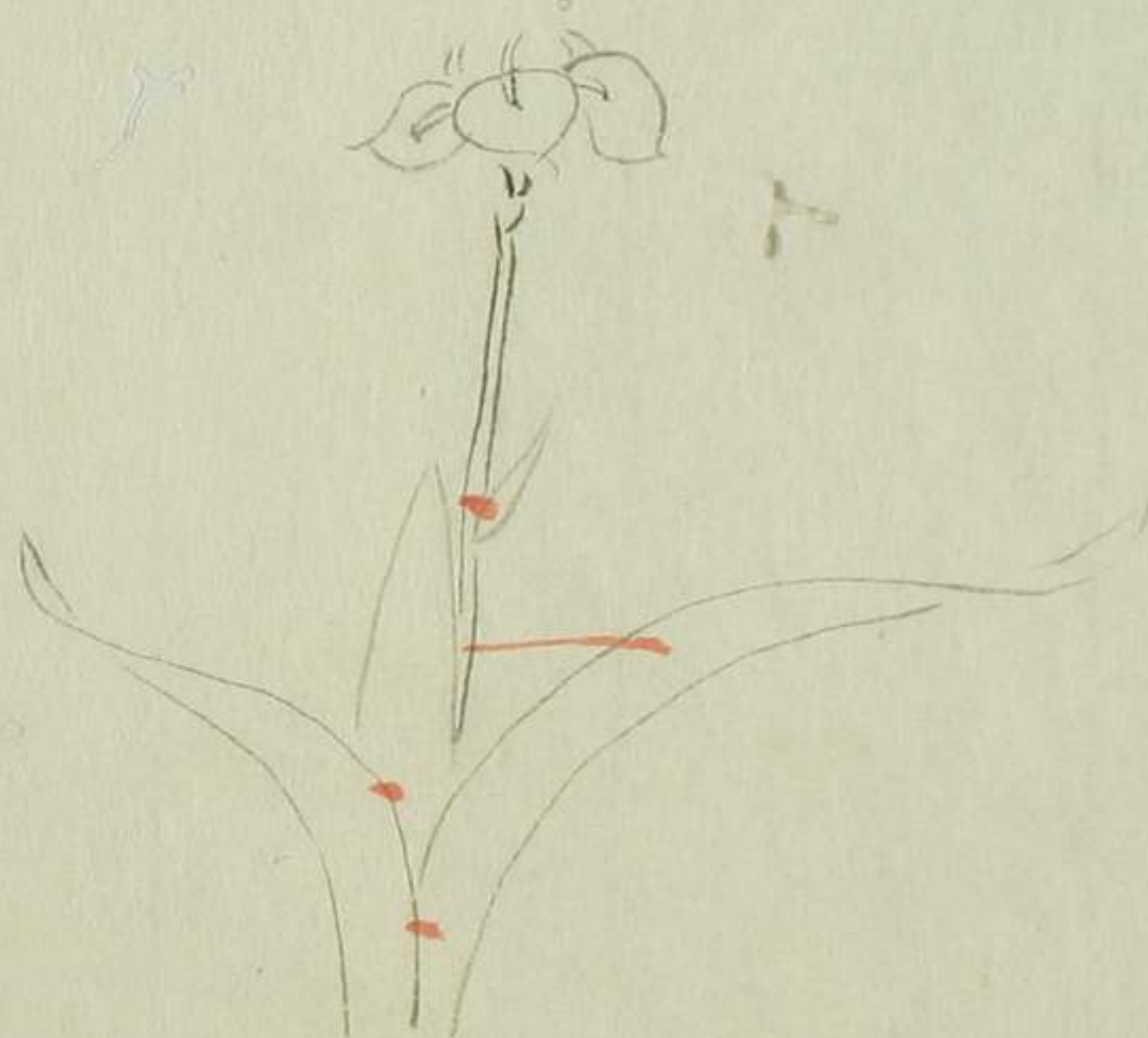
しめみ
曲ハ葉を
の花を
の葉を
しめみ



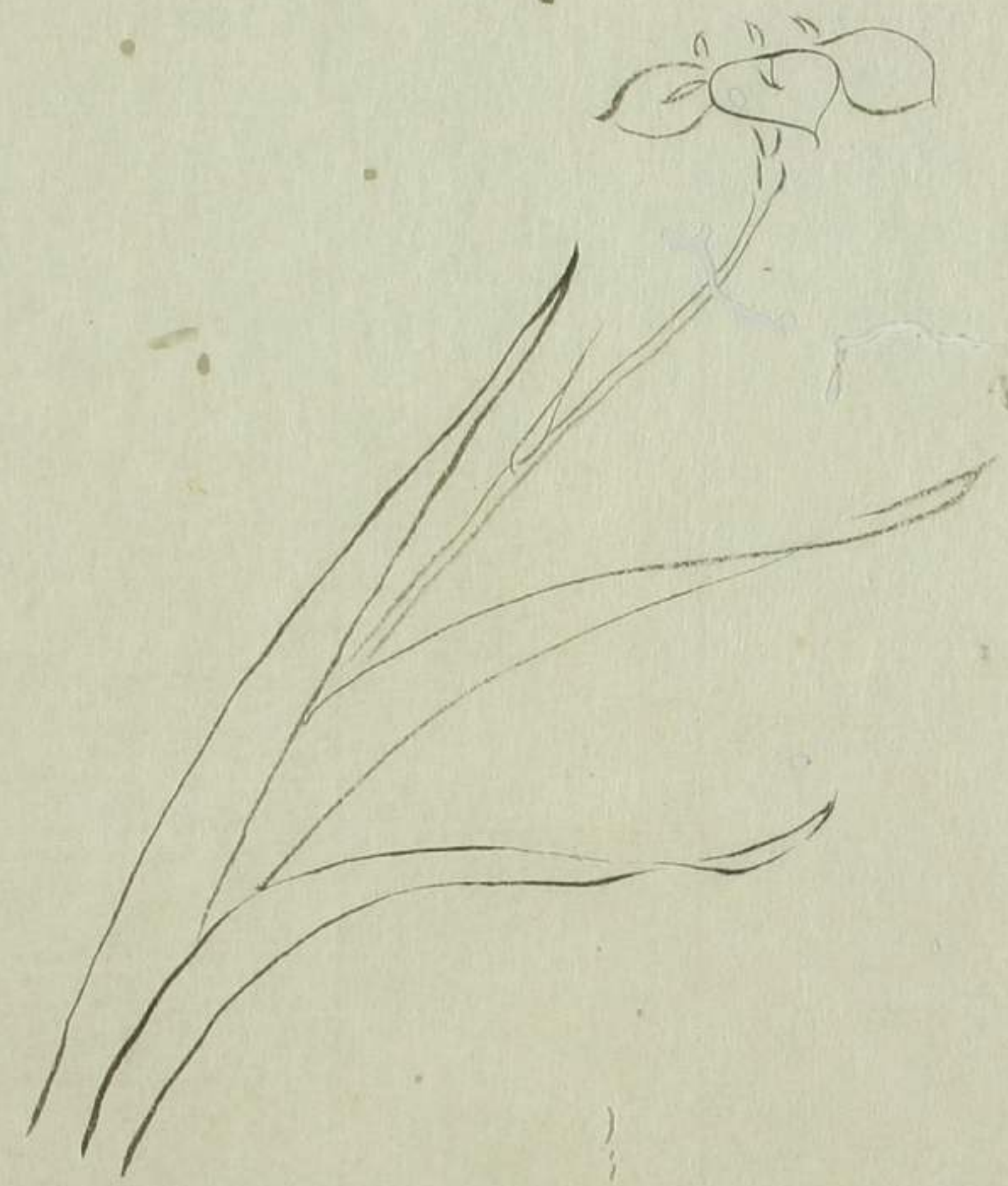
曲ハ葉あま葉ま葉つ葉つ
 曲ハ葉あま葉ま葉つ葉つ
 曲ハ葉あま葉ま葉つ葉つ



曲ハ葉あま葉ま葉つ葉つ
 曲ハ葉あま葉ま葉つ葉つ
 曲ハ葉あま葉ま葉つ葉つ
 曲ハ葉あま葉ま葉つ葉つ
 曲ハ葉あま葉ま葉つ葉つ
 曲ハ葉あま葉ま葉つ葉つ



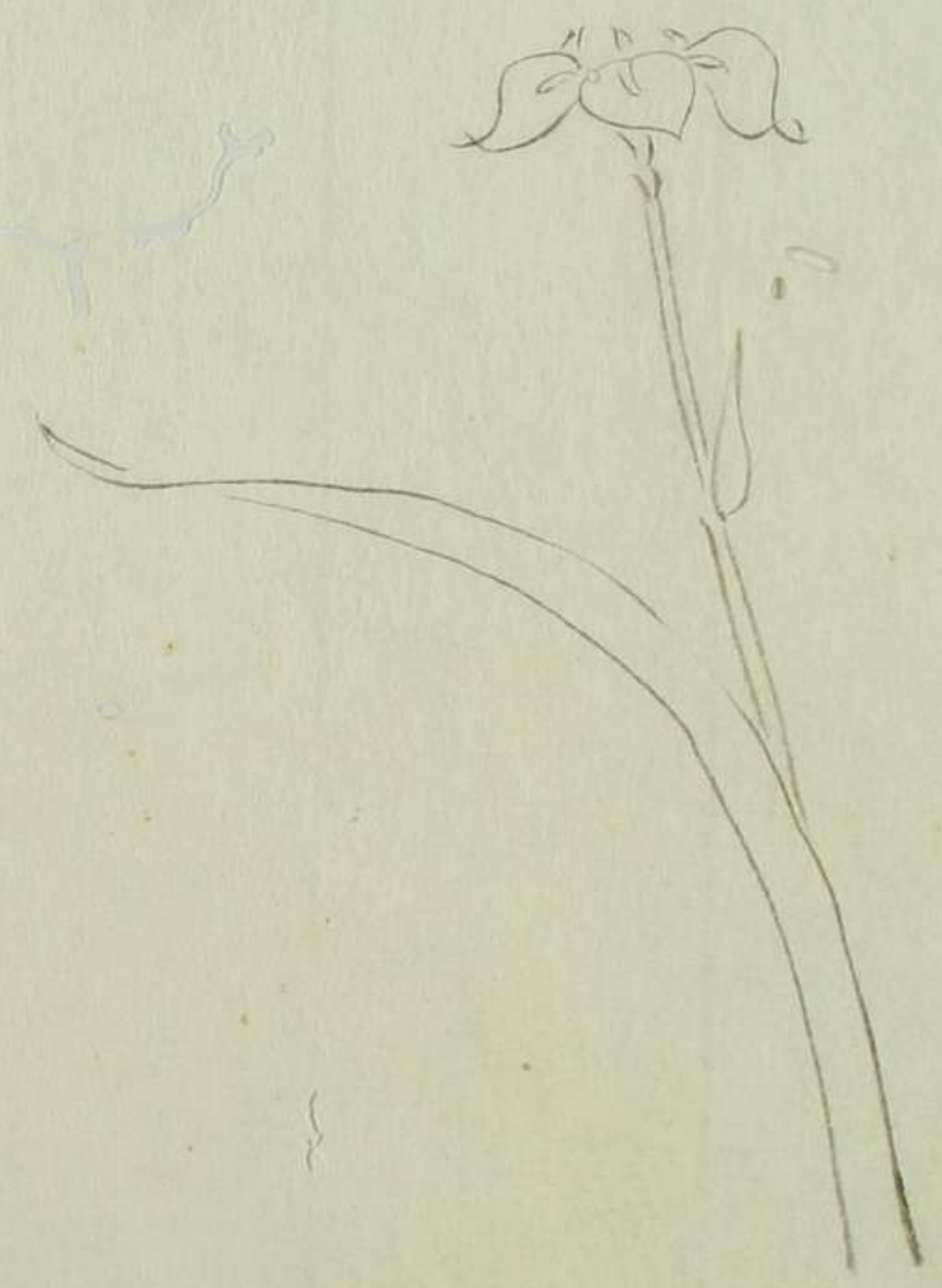
十の字を
 しるべき
 花の形
 地味の
 花の
 中
 へ



十の字を
 しるべき
 花の形
 地味の
 花の
 中
 へ



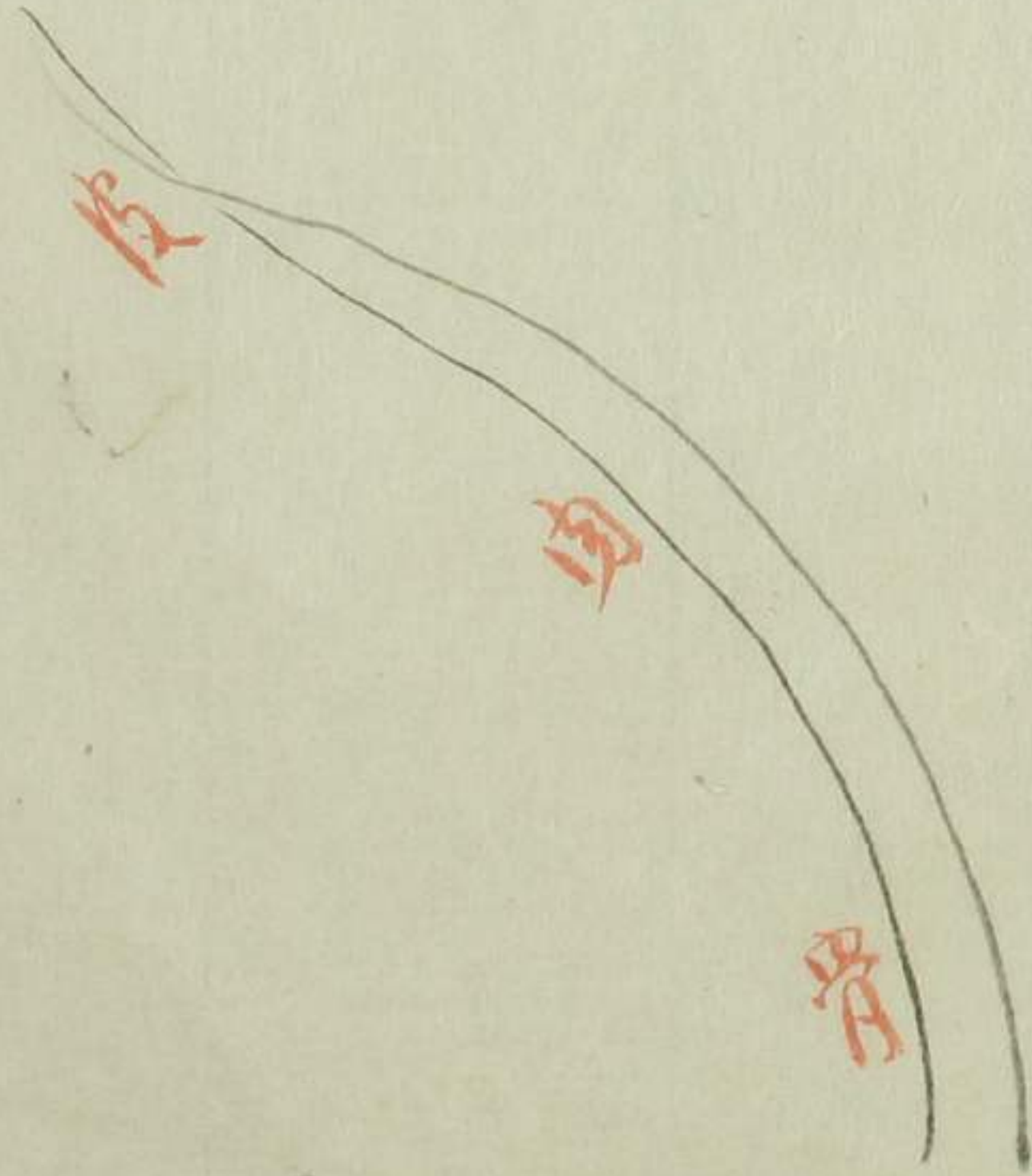
けい
花
ハ
花
の
葉
の
ま
い
か
を
形
と
る
口
傳



けい
曲
ハ
生
生
の
葉
葉
形
と
る
口
傳
小
生
と
る
口
傳



皮^い肉^{ちく}骨^{こつ}の^のま^まい^い筋^{ぢん}の^の口^{くち}伝^{でん}さ^さう



し^した^たり^り 黒^{くろ}い^い 針^{はり}を^を 糸^{いと}に^に 通^{とほ}す^す 相^あさ^さう



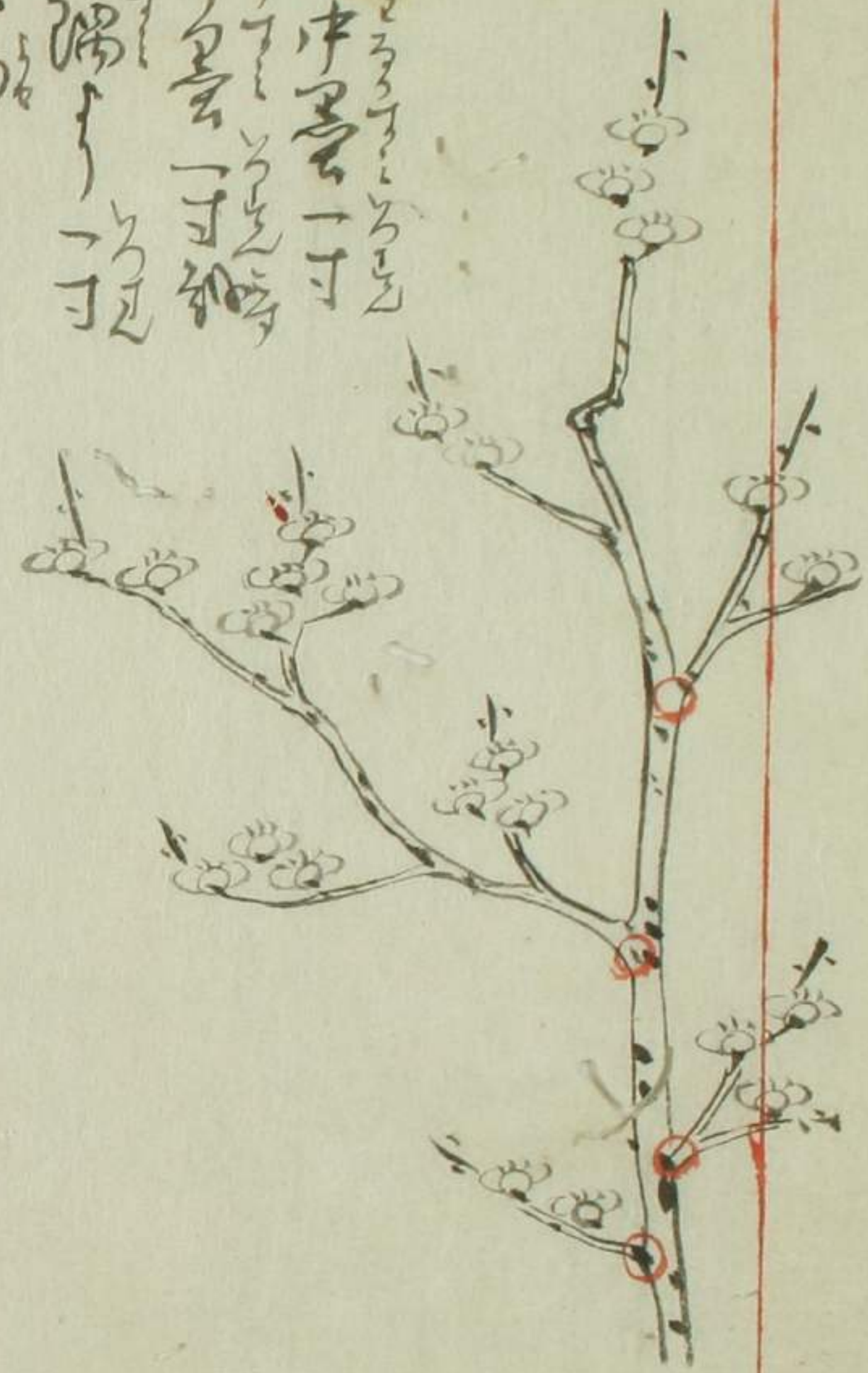
しつゝ
類ハ
皆ハ
如ク
斯ク
也
其ノ
生キ
方



しつゝ
類ハ
皆ハ
如ク
斯ク
也
其ノ
生キ
方



しやうが
暑ハ行の形



しやうが
暑ハ行の形
しやうが
暑ハ行の形
しやうが
暑ハ行の形
しやうが
暑ハ行の形

有此つまををる候の國を必地の人
不ぞら細見候今以の流きうとて
ふ又只此等細見申候の事

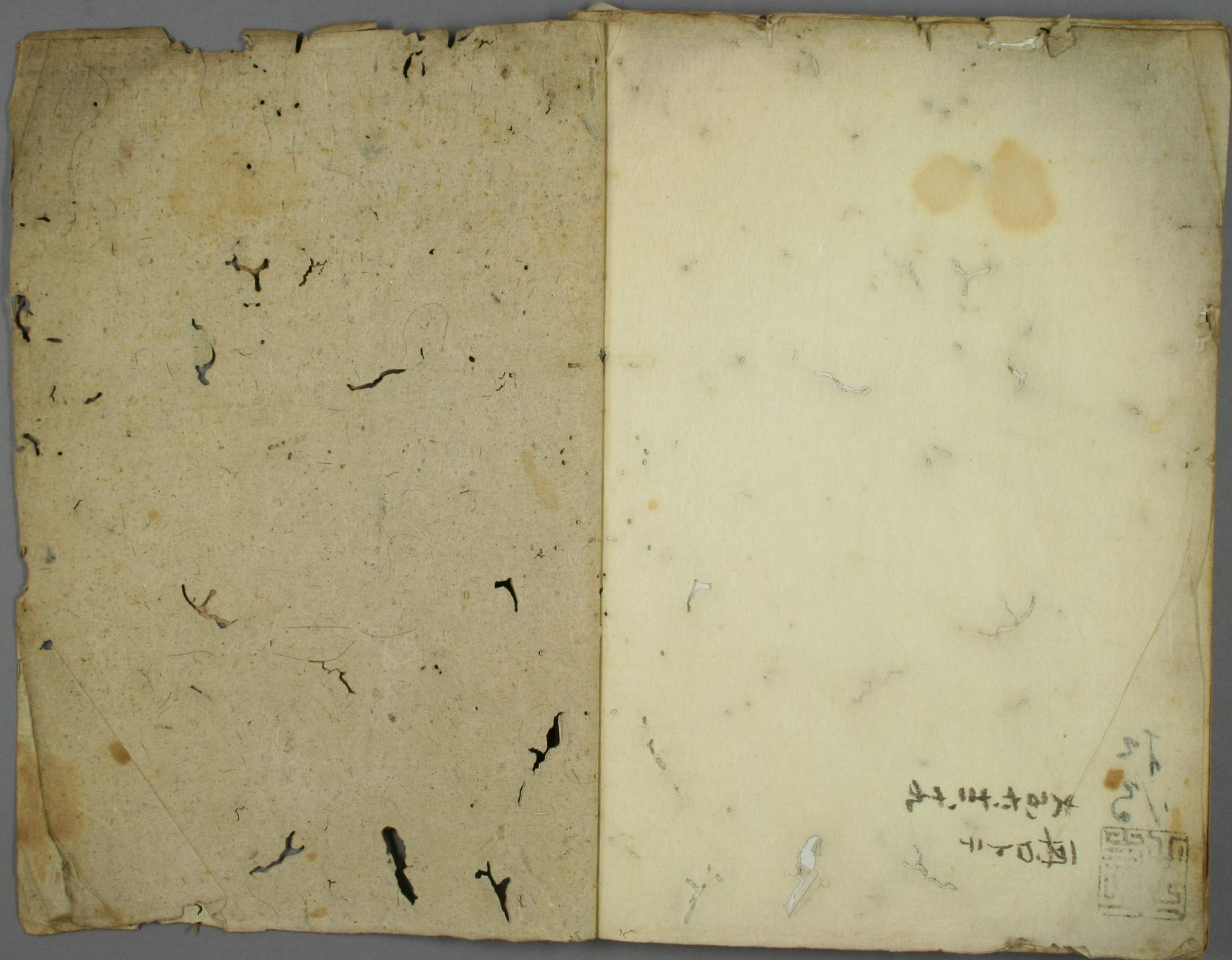
曾
齋
軒
法
眼

文化十之丙子未十三月

和
乃



和乃
乃



Handwritten text, possibly a date or reference number, written in dark ink.

18.0.11

Rectangular stamp or seal impression, likely a library or archival mark.

Handwritten text, possibly a date or reference number, written in dark ink.

